

紀要

- 石器製作からみた矢柄研磨器という道具…………… 重田 勉 (1)
- 近江湖西地域の土師器
—古墳時代中期から後期にかけて—…………… 籠尾 拓幸 (7)
- 滋賀県内出土の須恵器貯蔵器1
—古墳時代中期を中心に—…………… 高島 悠希 (13)
- 志賀・中村狐塚古墳測量調査報告…………… 辻川 哲朗・福井 知樹 (24)
- 犬上川右岸における集落の変遷
—彦根市福満遺跡を中心として—…………… 中川 治美 (37)
- 高島郡出土の底部糸切り土師器に関する基礎的研究
—「皿化」についての一考察—…………… 川嶋 泰輔 (51)
- 中世観音正寺の中心伽藍について
—観音寺城と観音正寺その(4)—…………… 伊庭 功 (61)
- 近江地域の近世銭貨…………… 森田 真由香 (70)

38

滋賀県内出土の須恵器貯蔵器 1

—古墳時代中期を中心に—

高島 悠希

目次

1. はじめに
2. 須恵器貯蔵器の口縁端部の形状変化
3. 滋賀県内出土の須恵器甕
4. おわりに

— 論文要旨 —

4世紀末ごろに韓半島南部から日本列島へ伝わった土器製作技術と窖窯焼成技術とによる須恵器生産の開始は、古墳時代における技術革新のひとつであった。大阪府堺市大庭寺遺跡のTG232号窯をはじめとした最初期に開窯した須恵器窯においては、甕や壺といった貯蔵器の検出が大半を占める。このことから、須恵器生産技術受容の主たる目的は、貯蔵機能の拡大であったとされている。現在の滋賀県内では、最初期の須恵器窯は発見されておらず、当地域における開窯期は泉窯（甲賀市）に代表される5世紀末葉まで待たなければならない。しかしながら、滋賀県内の各遺跡からは、初期須恵器をはじめとして5世紀代の須恵器が出土する 경우가少なくない。当該期において操業していた主要な須恵器生産窯は、大阪府の陶邑古窯跡群と愛知県の猿投山西南麓古窯跡群であり、滋賀県はこれら両窯の中間地点に位置するため、双方からの須恵器搬入が見込まれる。

そこで今回、滋賀県内の遺跡から出土した古墳時代中期の須恵器、とりわけ貯蔵器種に焦点を当て集成を試みた(図1・表1)。その理由としては、A) 貯蔵器種においては、遺跡から完形の状態で出土すること自体が稀であるため、須恵器研究は全国的にみても杯身や杯蓋といった供膳器を中心にした議論が活発であり、貯蔵器種については低調である。滋賀県における須恵器研究についても例外ではなく、これまで当該地における須恵器の貯蔵器種が主として取り上げられることが多くはなかったため、B) 筆者は、須恵器の器種の中でも法量の大きい貯蔵器は、須恵器の製作技術が他の器種類と比べて顕著に表れると考えている。従って、貯蔵器種を検討することで、それらの生産窯はもとより地域色などを知るための大きな手がかりになりうるためである。

なお、本論は全2部構成で執筆予定であり、本稿はその前半部にあたる。ここでは、陶邑窯および猿投窯で生産された須恵器甕の変遷の整理と須恵器貯蔵器の基礎集成、容量計測を主体とし、その成果と検討は次稿に譲りたい。

——— キーワード

古墳時代中期 須恵器 陶邑窯 猿投窯 甕 壺

1. はじめに

各地方で須恵器窯が出現する 6 世紀初頭以前において、すでに開窯していた主要な須恵器窯には、1) 陶邑古窯跡群(大阪府)、2) 猿投山西南麓古窯跡群(愛知県)の 2 か所がある。陶邑古窯跡群(以下、陶邑窯)は、TG232 号窯を嚆矢として 4 世紀末から 5 世紀初頭にかけてに開窯し、以降平安時代まで連綿と続く須恵器窯の一大生産地である。あわせて、猿投山西南麓古窯跡群(以下、猿投窯)は、5 世紀中葉ごろに開窯した東山 111 号窯を嚆矢として、以降その生産は平安時代まで連綿と続く須恵器窯の一大生産地である。滋賀県は、これら須恵器生産地である大阪府の陶邑窯と愛知県の猿投窯との中間地点に位置するため、ことに滋賀県で須恵器窯が認められない古墳時代中期(5 世紀代)や、それ以降の時期においても両窯からの須恵器搬入や須恵器生産の技術指導が見込まれる、と想定できる。

そこで本論では、滋賀県内にて検出された貯蔵器種が、どちらの地域からの影響(陶邑窯か猿投窯)が認められるのかについて明らかにするために、滋賀県内における須恵器、とりわけ甕をはじめとした貯蔵器種について集成を行うことで、今後の貯蔵器研究においての一助としたい。

なお、本論で扱う陶邑窯の編年は先学諸士の研究を基本として(森 1958、田辺 1966・1981、中村 1978 など)、TG232 型式期を古墳時代中期初頭、TK73 型式期を古墳時代中期前葉、TK216 型式期を古墳時代中期中葉、TK208 型式期を古墳時代中期後葉、TK23・47 型式期を古墳時代中期末葉としている。猿投窯の編年については、近年、愛知県史の刊行に至ってまとめられた県史編年(城ヶ谷 2015)を参照する。また、本稿においては、猿投窯における開窯期の窯が認められる東山地区(愛知県名古屋市)を限定にして使用される東山古窯址群(東山窯)の名は使用せず、猿投窯の語を用いる。貯蔵器種の各部名称は、図の通りである(図 2)。容量の測定方法は、田中耕作氏が提示した手法に則り、概算値を算出する(田中 2006)(図 2)。

本論で取り扱う須恵器貯蔵器は、口径値 12cm 以上を対象とし、便宜上「甕」の単語を用いる。また、甕の口径値 30cm を境に、30cm 未満を小型甕、30cm 以上を大型甕として単語を使い分ける。「壺」と「甕」の、どちらの名称を使用すべきかについてや、「小型甕」「中型甕」「大型甕」の区別は、本論では取り上げないものの、容量値の大小の区別などを基準に本来であれば単語の使い分けが必要であろう。先述したように、貯蔵器種の完形での出土が少ないことも相まって、他の器種と比較しても研究は低調である。今後筆者は、完形の甕・壺の集成を続け、その情報を収斂することで、上述した貯蔵器種の名称と大きさの区別について考察したい。現在は全国規模での収集が不十分であるために、本稿ではその区別については定義しない。

2. 須恵器貯蔵器の口縁端部の形状変化

消費地遺跡や生産遺跡において須恵器貯蔵器が完形で出土することは稀である。胴部の破片や口縁部のみといったように一部が出土することが多いことから、出土した貯蔵器の時期を把握するための視点として口縁部に着目する機会が多い。よって、口縁部の形状を読み取ることで、出土した貯蔵器の時期を知る手がかりの一つとする。そして、時期ごとに口縁端部形状の変化を追うことによって編年を組み、遺跡から出土した須恵器の生産された時期を探る。

ここでは、滋賀県内で出土した須恵器貯蔵器がどの時期・場所で生産されたかを知るためにも、陶邑窯と猿投窯における古墳時代中期の須恵器貯蔵器の口縁端部形状の変化について迫りたい(図 3)。陶邑窯と猿投窯との並行関係や猿投窯編年は、これまで多くの議論が重ねられている(斎藤 1995、尾野 2000、大西 2017、中里 2021 など)。ここでは、東山 111 号窯と東山 48 号窯を同時期の生産窯とし、東山 111 号窯期を TK73 型式期～TK216 型式期に並行、城山窯期を猿投窯編年には組み込ませず、東山 11 号窯期を TK208 型式期から TK23・47 型式期に比定している。

(1) 古墳時代中期前葉 陶邑編年という TK73 型式期の時期に該当する。この時期の陶邑窯の甕は、口縁の端部を丸くおさめる形状が特徴的である(図 3-1・2)。口縁端部内面を弱く窪ませる個体とそうでない個体が存在する。さらに口縁端部を斜め上方向につまみあげるものと、真横に形成するものの 2 種類が認められ、頸部から口縁部にかけては、大きく斜め上の方向に外反する。端部直下に認められる逆三角形の突線は、有さない個体と有する個体の双方が生産されている。この時期の貯蔵器の内面には、彫りが深い同心円文は認められず、無文のものが大半を占める。また、前段階の古墳時代中期初頭(TG232 型式期)に生産された甕には認められなかった、甕の外面のタキ痕が当該期から認められるようになる。

猿投窯の貯蔵器は、陶邑窯と同様に口縁の端部を丸くおさめる形状が特徴的である。同形状の特徴をもつ猿投産の貯蔵器は、生産遺跡においては東山 111 号窯(愛知県名古屋市)の小形の甕 1 点(図 3-13)しか認められず資料的な限界を感じるものの、筆者は近似する口縁端部の特徴から TK73 型式の時期に並行させている。

(2) 古墳時代中期中葉 陶邑編年という TK216 型式の時期に該当する。当該期は、口縁端部を丸くおさめる形状を有した個体が少なくなり、口縁の端部に面を成形する特徴をもつ(図 3-4～6)。当面を指ナデ成形するに伴って、面の上下両端部に粘土が押し上げられ、非常に弱い口唇状を示す個体も認められる。頸部から口縁部にかけては、真横の方向に外反する。前段階と同様に端部直下の逆三角形の突線を有さない個体と有する個体が生産されている。

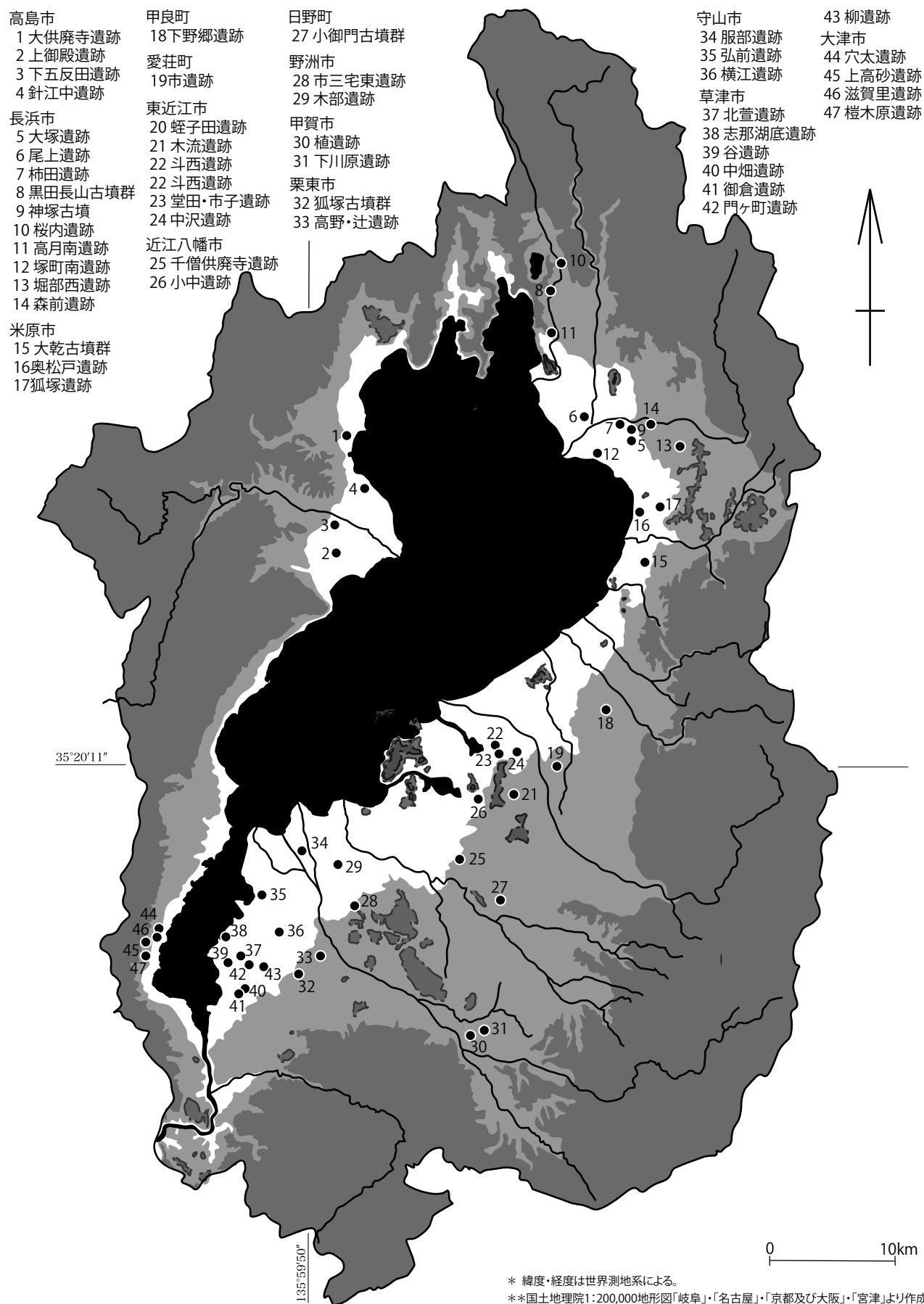


図1 本稿で取り扱う遺跡

滋賀県内出土の須恵器貯蔵器 1

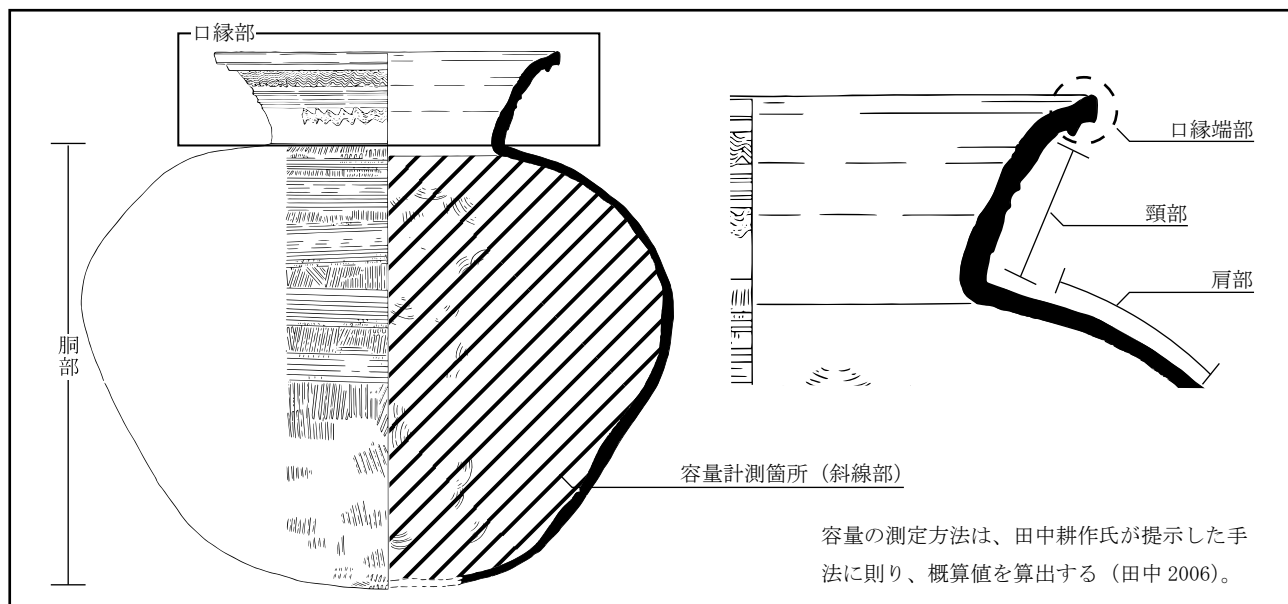


図2 須恵器貯蔵器種の各部名称と容量計測箇所

	陶邑窯		猿投窯	
古墳時代中期前葉				
中葉				
後葉				
末葉				
1・2・3 TK73 号窯 4・5 TK216 号窯 6 TK301 号窯 7・8 TK208 号窯 9 TK232 号窯 10・12 TK23 号窯 11 TK47 号窯 13・14・15・16 東山 111 号窯 17・18・19・20 東山 11 号窯 21 東山 10 号窯				

図3 陶邑窯と猿投窯における須恵器貯蔵器口縁部の形態変化

当該期の猿投窯の貯蔵器は、口縁端部を面に成形することなく、端部の上部を丸くおさめ、下部の突線を含めて口唇状を呈している(図3-14~16)。そして端部内面を窪ませ、頸部から口縁端部にかけては真横方向に大きく外反させる。口縁端部直下には逆三角形の突線を有さず、頸部は滑らかに成形される。同様の特徴をもつ甕は、陶邑窯においては濁り池窯やON22- I・II・III号窯、TK305- I号窯において確認できる。内面には当て具痕は認められない。

(3) 古墳時代中期後葉 陶邑編年でいうTK208型式の時期に該当する。口縁端部は面を成す個体が多い印象で、上部方向に弱いつまみ上げをする個体も一定数認められる。この時期の大きな特徴としては、頸部から口縁部にかけての外反度合いが前段階のTK216型式期と比較しても直立する方向に立ち上がり、真横の方向には外反することが少ないことにある(図3-7~9)。外面のタタキ痕は必ず認められる一方で、内面の当て具痕は認められない個体が多いものの、弱い同心円文が認められる個体も一定数ある。

当該期には、猿投窯の東山11号窯における一部の個体を比定させている(図3-17・18)。前段階よりも頸部から口縁部にかけて弱く斜め上方向に立ち上がる。口縁端部は口唇状を示し、その直下には逆三角形の突線を有さず、頸部は滑らかに成形される。内面に当て具痕は確認できない。生産窯においては当窯の2個体のみしか検出されていないため、陶邑窯との並行関係には検討の余地が残る。頸部から口縁部の立ち上がりの外反度合いが前段階の東山111号窯期と比較して異なること、また、陶邑窯で確認した前段階のTK216型式期からTK208型式期にかけての外反度合いの変化する過程が類似することから、東山11号窯の須恵器甕を古墳時代中期後葉に比定させている。

(4) 古墳時代中期末葉 陶邑編年でいうTK23・47型式期の時期に該当する。この時期の大きな特徴は、口縁の端部が上部垂直方向へつまみ上げられることにある(図3-10~12)。この成形に伴って、口縁端部の内面に強い窪みができる。また、内面の弱い当て具痕が一定数認められること、小型の甕においては、頸部高が短くなる傾向が看取できる。頸部から口縁部にかけての外反度合いは、TK208型式期と大きな相違はないものの、より真上方向へ成形される個体もある。

猿投窯の甕は、陶邑窯と同様に口縁の端部が上部垂直方向へつまみ上げられる(図3-19~21)。さらに従来の猿投窯に認められなかった口縁端部直下の突線を有する個体が生産されることから、陶邑窯と猿投窯の技術交流を想定できる。内面の当て具痕は認められない。当該期には、東山11号窯の甕と東山10号窯から出土した一部の甕を比定させている。生産窯においては3点のみの出土であるため資料的限界を感じるものの、口縁端部の近似した特徴から

東山11号窯期をTK23・47型式期並行としたい。

(5) 小結 陶邑窯と猿投窯における須恵器甕の相違点は、a) 陶邑窯では度々認められる口縁端部直下の一条突線を有する個体が猿投窯には認められないこと(古墳時代中期中葉から後葉にかけて)、b) 陶邑窯のTK23・47型式期から認められる甕内面の当て具痕が猿投窯の甕には認められないこと(2)、c) 陶邑窯産における甕の外面調整において、胴部については平行タタキのちにカキ目を施す個体や格子タタキを施す個体、頸部についてはカキ目を施す個体が一般的に生産されているが、猿投窯では先述した特徴を持つ須恵器甕が一切生産されていないことの3点である。

以上、各時期の陶邑窯と猿投窯の須恵器甕の特徴を列挙してみた。並行関係には議論の余地が残るものの、甕が陶邑窯産か猿投窯産かを峻別するための基本は確認できた。今後この検討をもとに、滋賀県内の遺跡にて出土した甕が、どちらの生産地で製作されたのかについて迫りたい。

3. 滋賀県内出土の須恵器甕

筆者は、滋賀県内に点在する遺跡から出土した、古墳時代中期いわゆる陶邑編年のTG232型式期からTK23・TK47型式期にかけての須恵器甕の集成をおこなった。出土遺跡は47地点に及ぶ(表1)。完形品はもとより、口縁部から頸部にかけて残存している、個体を焦点に当て、貯蔵器をまとめた結果、111点の個体を抽出することができた。表には、遺跡名とともに計測した甕の口径値、頸部高、胴部最大径、器高、容量(ℓ)を示している。集成の結果、滋賀県にはTG232号型式期やTK73形式期といった開窯期から古墳時代中期後葉にかけてまで、須恵器甕が搬入されていることが理解できる(図4)。また、完形の須恵器甕についても複数個体確認できた(図5)。

詳細な検討は次稿におくものの、完形個体の実測図をまとめてみると、似たようなプロポジションをもち、なおかつ容量値も近似している。貯蔵器を製作する際の規格の有無については、今後の研究課題としたい。

4. 終わりに

古墳時代中期の須恵器甕を集成した結果、完形を含め多くの出土事例を目にすることができた。この結果をもとに次稿では貯蔵器の産地を、そして口縁部値や容量をもとに規格化の有無について検討を行いたい。

註

- (1) 本来であれば、陶邑窯の地区ごとに、生産された須恵器甕の特徴を考察し、それをもとに比較検討する必要がある。今後の研究課題としたい。実際に東山111号窯にて生産された口唇状を有する個体は、陶邑窯の大野池地区に類似する例が多い。
- (2) 猿投窯の須恵器甕は通時代的に内面に当て具痕が認められな

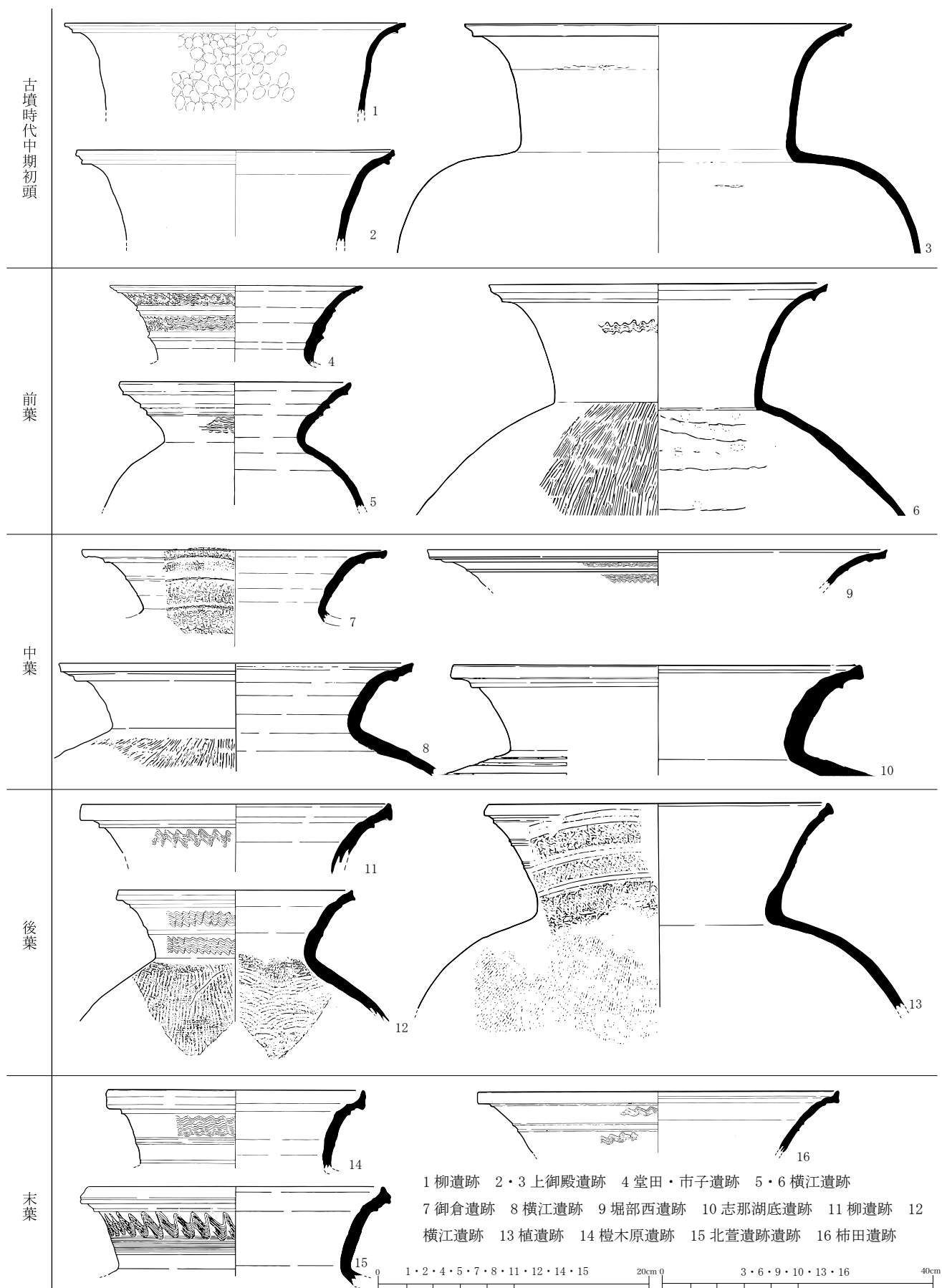


図4 滋賀県出土の須恵器貯蔵器 (古墳時代中期)

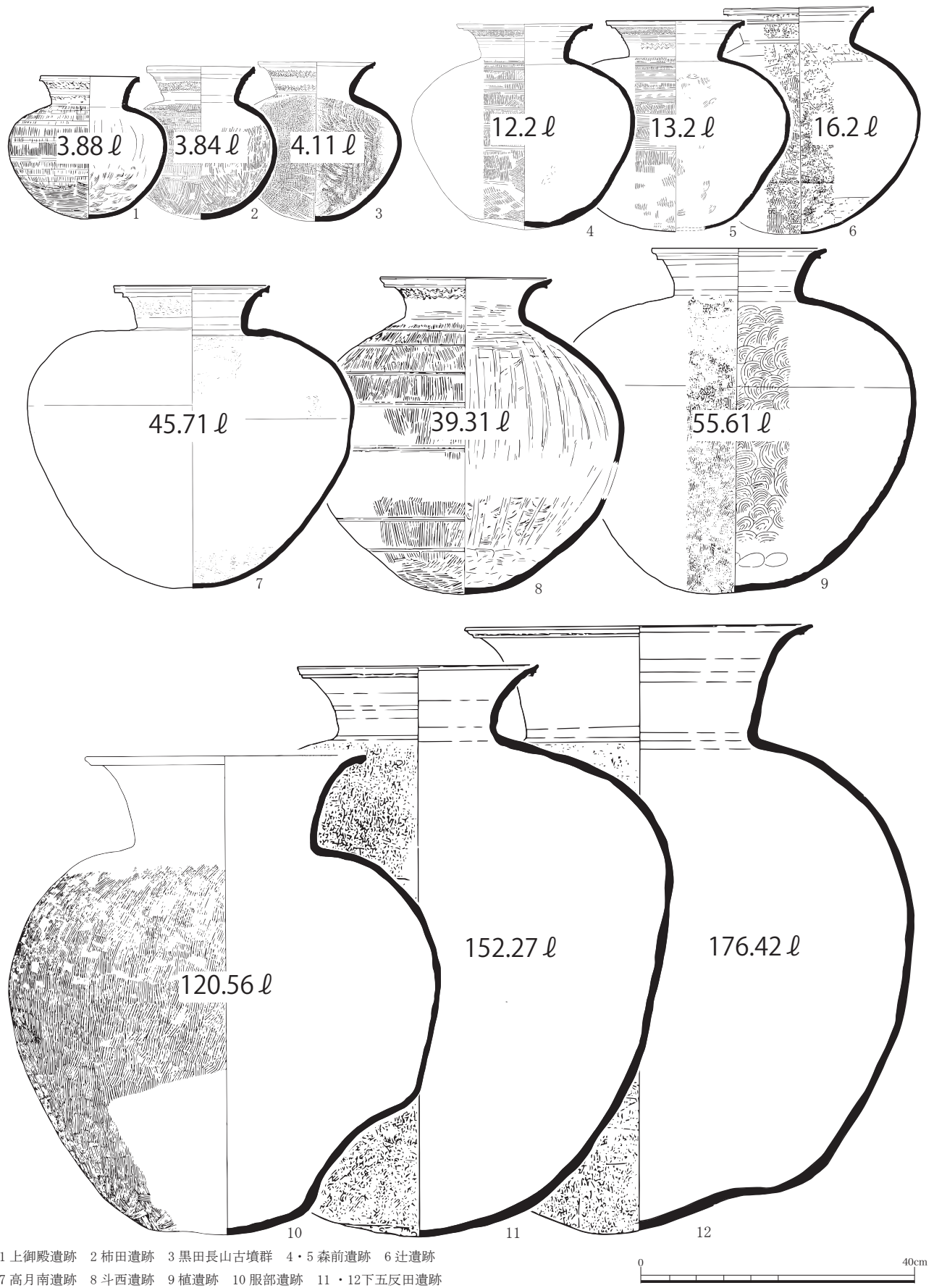


図5 滋賀県出土の須恵器貯蔵器（完形品）と容量値

い。筆者はこれまで、東山 111 号窯をはじめとした開窯期の生産窯から 8 世紀初頭前後に操業した高蔵寺 2 号窯の貯蔵器を実見してきたが、7 世紀半中葉の岩崎 101 号窯の時期までは、強い同心円文を有する個体は認められなかった。

文献一覧

- 愛知県史編さん委員会（2015）『愛知県史』別編 窯業 1 古代 猿投系
- 荒木実（1994）『東山古窯址群』中日出版本社
- 大西 遼（2017）「窯跡資料から見た東山窯開窯期の再検討」『考古学フォーラム』23 考古学フォーラム
- 尾野善裕（2000）「猿投窯（系）須恵器編年の再構築」『第 1 回東海土器研究会 須恵器生産の出現から消滅 猿投窯・湖西窯編年の再構築』東海土器研究会
- 小林久彦（1987）「第 6 章 考察」『水神古窯』豊橋市教育委員会
- 斎藤孝正（1983）「猿投窯成立期の様相」『名古屋大学文学部研究論集』（史学 29）名古屋大学文学部
- 田中耕作（2006）「簡易な土器容量測定方法の紹介」『新潟考古学座談会会報』第 31 号 新潟考古学座談会
- 田辺昭三（1966）『陶邑古窯址群 I』平安学園考古学クラブ
- 田辺昭三（1981）『須恵器大成』角川書店
- 中久保辰夫（2017）「初期須恵器の地域色と技術移動に関するノート」『考古学フォーラム』23 考古学フォーラム
- 中里信之（2021）「東山窯成立に関わる系譜と編年の諸問題」『古墳文化基礎論集』古墳文化基礎論集刊行会
- 中村浩（1978）「和泉陶邑窯出土遺物の時期編年」『陶邑』Ⅲ 大阪府文化財調査報告書 第 30 輯 大阪府教育委員会・大阪府文化財センター
- 林純（1991）「近江における古墳時代須恵器生産の特質」『滋賀考古』第 6 号 滋賀考古学研究会
- 森浩一（1958）「和泉河内窯の須恵器編年」『世界陶磁全集』第 1 巻、河出書房

報告書（滋賀県の下記番号は表 1 と連動）（公益財団法人は省略）

愛知県

- 豊橋市教育委員会（1987）『豊橋市埋蔵文化財発掘調査報告集第 7 集 水神古窯』

滋賀県

- 1 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2004）今津警察官待機宿舎新築工事に伴う発掘調査報告書『大供庵寺遺跡』
- 2・3・4 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2019）鴨川補助助域基幹河川改修事業（青井川）に伴う発掘調査報告書（2019）『上御殿遺跡』
- 5・6 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2004）県道小浜朽木高島線改良工事に伴う発掘調査報告書『下五反田遺跡』
- 7 国道 161 号線バイパス関連遺跡調査概要（昭和 57 年度）3（1983）『新庄城遺跡・正伝寺南遺跡・針江中遺跡・針江北遺跡発掘調査概要』

- 8 長浜市教育委員会（2003）長浜市埋蔵文化財資料 第 51 集『団体営圃場整備事業関連遺跡調査報告書』
- 9 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2003）琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 7『琵琶湖北東部の湖底・湖岸遺跡』
- 10～12 長浜市教育委員会（1999）長浜市埋蔵文化財調査資料 25 集 東上坂地区団体営圃場整備事業『墓立遺跡 柿田遺跡 区蓮寺遺跡調査報告書第一冊』
- 13・14 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1981）『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書 VI—伊香郡余呉町所在黒田長山古墳群—』
- 15 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1999）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 26-3『上寺地遺跡 北郷里小遺跡』
- 16 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1989）『北陸自動車道関連遺跡発掘調査報告書 XI—伊香郡余呉町桜内遺跡—』
- 17 長浜市教育委員会（2017）『高月南遺跡 第 66・第 77 次発掘調査報告書』
- 18・19 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1985）県営干拓地農地整備事業関係発掘調査 - II『塚町南遺跡』
- 20 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1985）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XⅧ - 1『堀部西遺跡』
- 21・22 滋賀県教育委員会他・滋賀県文化財保護協会（1993）場整備関係遺跡発掘調査報告書 20- 9『堀部西・丸岡塚遺跡・春近遺跡』
- 23・24 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1988）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 X V - 1『長浜市森前遺跡・国友遺跡・小沢城跡・坂田郡近江町正恩寺遺跡』
- 25 米原町教育委員会（1989）米原町埋蔵文化財調査報告 XⅢ『一般国道 8 号（米原バイパス）関連遺跡試掘調査報告書』
- 26 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1989）一般国道 8 号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告 VI - 奥松戸遺跡 -
- 27 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1989）『一般国道 8 号（長浜バイパス）関連遺跡発掘調査報告書 V—狐塚遺跡・法勝寺遺跡—』
- 29 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1990）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 XⅧ - 2『下之郷遺跡—犬上郡甲良下之郷—』
- 30 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2003）県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書 18『市遺跡』
- 31～33 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2014）蒲生スマートインターチェンジ設置工事（県事業区域）に伴う発掘調査報告書『蛭子田遺跡 2』
- 34 五個荘町教育委員会（1985）五個荘町文化財調査報告書 4『木流遺跡・平阪遺跡』
- 35・36 五個荘町歴史博物館（1999）『神崎地宝』
- 37・38 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1989）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書 X V - 5『堂田・市子遺跡（2）』
- 39 東近江市教育委員会（2010）『東近江市埋蔵文化財調査報告書第

- 13 集一中沢遺跡（19 次）
 - 40 能登川町教育委員会（1993）能登川町埋蔵文化財調査報告書第 26 集『中沢遺跡（第 8 次）法堂寺遺跡（第 2 次）』
 - 41 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1991）白鳥川中小河川改修工事関連遺跡調査報告 3『千僧供廃寺遺跡発掘調査報告書』
 - 42 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1982）『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅸ - 3』
 - 43 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1982）『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅤ - 2』
 - 44 野洲市教育委員会（2015）『平成 26 年度野洲市文化財調査概要報告書』
 - 45 野洲市教育委員会ほか（1990）野洲町文化財資料集 1990- 4『市三宅宅遺跡発掘調査報告書 - 2』
 - 46 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1986）『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅢ - 1』
 - 47・48 野洲市教育委員会（2007）『平成 17 年度 野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 2』
 - 49～55 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2005）ほ場整備関係（経営体育基盤整備）遺跡発掘調査報告書 32- 3『植遺跡』
 - 56 甲賀市教育委員会・積水化学工業株式会社（2006）甲賀市文化財報告書 第 7 集『下川原遺跡発掘調査報告書』
 - 57 財団法人 栗東町文化体育振興事業団（1994）栗東市埋蔵文化財調査『1992 年度 年報Ⅱ - 岩畑遺跡・狐塚古墳群・山田窯跡Ⅰ』
 - 58・59 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1990）県道高野・守山線特殊改良工事に伴う『高野・辻遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
 - 60 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1987）琵琶湖大橋有料道路建設事業に伴う『栗東町高野遺跡発掘調査報告書』
 - 61・62 栗東市教育委員会ほか（2009）『辻遺跡発掘調査報告書』
 - 63～71 滋賀県教育委員会・守山市教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1984）『服部遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
 - 72 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2008）ほ場整備関係（水質保全対策）遺跡発掘調査報告書 35- 1『弘前遺跡Ⅰ』
 - 73・74 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1990）滋賀県住宅供給公社による横江団地建設に伴う発掘調査報告書『横江遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
 - 75～78 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1987）滋賀県住宅供給公社による横江住宅団地建設に伴う発掘調査報告書『横江遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
 - 79～81 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1994）『北萱遺跡発掘調査報告書』
 - 82 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1986）湖岸堤管理道路志那北その 2 工区建設に伴う『志那湖底遺跡試掘調査報告書』
 - 83～85 草津市教育委員会（2001）草津市文化財調査報告書 43 草津川放水路関連遺跡発掘調査報告書 2『谷遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
 - 86・88 草津市教育委員会（1997）草津市文化財調査報告書 28『草津川改修関連遺跡発掘調査概要報告書（Ⅹ）』
 - 89～90 草津市教育委員会（2002）草津市文化財調査報告書 47 草津川放水路関連遺跡発掘調査報告書 3『中畑遺跡発掘調査報告書Ⅰ』
 - 91 草津市教育委員会（2023）『中畑遺跡発掘調査報告書』
 - 92 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2004）草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅵ『御倉遺跡Ⅱ』
 - 93～95 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1997）『御倉遺跡発掘調査報告書』
 - 96 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2004）ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅦ -12『御倉遺跡』
 - 97・98 草津市教育委員会（2014）草津市文化財調査報告書 102『門ヶ町遺跡第 22 次発掘調査報告書』
 - 99・100 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1990）草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書Ⅶ『柳遺跡Ⅰ』
 - 101・102 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2006）『柳遺跡Ⅲ』
 - 103・104 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（2000）一般国道 161 号（西大津バイパス）建設に伴う『穴太遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
 - 105 大津市教育委員会（1992）大津市埋蔵文化財調査報告書（20）『上高砂遺跡発掘調査報告書』
 - 106・107 大津市教育委員会（2010）大津市埋蔵文化財調査報告書（50）滋賀里遺跡発掘調査報告書Ⅱ
 - 108～110 滋賀県教育委員会・滋賀県文化財保護協会（1981）『榎木原遺跡発掘調査報告書Ⅲ』 - 南滋賀廃寺瓦窯一（図版編Ⅱ）
- 大阪府
- 大阪府教育委員会（1976）『陶邑Ⅰ』大阪府文化財調査報告書 第 2 輯
- 大阪府教育委員会（1977）『陶邑Ⅱ』大阪府文化財調査報告書 第 29 輯
- 大阪府教育委員会（1978）『陶邑Ⅲ』大阪府文化財調査報告書 第 30 輯
- 挿図典拠**（各図の須恵器甕は下記典拠の図面を筆者が再トレース、括弧内は「報告書」に記載した滋賀県報告書番号）
- 図 1・表 1 筆者作成
- 図 2 甕（報告書：滋賀県 23・24）
- 図 3 甕 1～5・7・8・10～12（田辺 1966・1981）、6・9（大阪府 1978）13～16・19～21（愛知県 2015）、17・18（小林 1987）
- 図 4 甕 1・11（101）、2・3（2・3）、4（37・38）、5・6・8・12（36）、7（41）、9（13）、10（38）、13（30）、14（47）、15（37）、16（7）
- 図 5 甕 1（2・3）、甕 2（7）、甕（8）、4・5（14）、6（33）、7（11）、8（22）、9（30）、10（34）、11・12（3）
- （たかしま ゆうき：調査課 技師）

表 1 須恵器甕集成表 (1)

	図 1 遺跡番号	市町村	遺跡名	出土遺構	図番号	時期	陶邑編年	口縁部径 (cm)	容量 (ℓ)
1	1	高島市	大供庭寺遺跡	T2-1号墳	17	古墳時代中期後葉	TK208	24.2	29.8
2	2	高島市	上御殿遺跡	16区河道S1-1	279	古墳時代中期初頭	TG232	57	—
3	2	高島市	上御殿遺跡	16区河道S1-1	309	古墳時代中期初頭	TG232	46.8	—
4	2	高島市	上御殿遺跡	16区河道-1 遺物群2	516	古墳時代後期初頭	MT15	14.7	—
5	3	高島市	下五反田遺跡	C調査区SH03	146	古墳時代中期中葉	TK216	35.7	152.27
6	3	高島市	下五反田遺跡	C調査区SH03	147	古墳時代中期前葉	TK73	51.45	176.42
7	4	高島市	針江中遺跡	SK8	図版35-3	古墳時代中期後葉	TK208	15.9	—
8	5	長浜市	大塚遺跡	第11次調査K3	327	古墳時代中期後葉	TK208	21.1	—
9	6	長浜市	尾上遺跡	第6調査区T7	1013	古墳時代中期初頭	TG232	41.8	—
10	7	長浜市	柿田遺跡	1号墳	1074	古墳時代中期後葉	TK208	15.6	3.84
11	7	長浜市	柿田遺跡	3号墳	1098	古墳時代中期末葉	TK23・47	22.1	17.03
12	7	長浜市	柿田遺跡	3号墳	1100	古墳時代中期末葉	TK23・47	39.9	—
13	8	長浜市	黒田長山古墳群	8号墳	1	古墳時代中期後葉	TK208	計測中	計測中
14	8	長浜市	黒田長山古墳群	19号墳	1	古墳時代中期中葉	TK216	17.2	4.11
15	9	長浜市	神塚古墳	T-3 神塚古墳a区	202	古墳時代中期後葉	TK208	計測中	計測中
16	10	長浜市	桜内遺跡	81 SB10	18	古墳時代中期前葉	TK73	14.8	—
17	11	長浜市	高月南遺跡	T2	10	古墳時代中期後葉	TK208	22.6	45.71
18	12	長浜市	塚町南遺跡	SK1	10	古墳時代中期後葉	TK208	18.4	—
19	12	長浜市	塚町南遺跡	SK1	12	古墳時代中期後葉	TK208	15.6	—
20	13	長浜市	堀部西遺跡	H地区	64	古墳時代中期中葉	TK216	17	—
21	13	長浜市	堀部西・丸岡塚遺跡	SX701	359	古墳時代中期中葉	TK216	50.7	—
22	13	長浜市	堀部西・丸岡塚遺跡	T8	364	古墳時代中期後葉	TK208	17.6	—
23	14	長浜市	森前遺跡	D-SD1	51	古墳時代中期中葉	TK216	20.2	13.22
24	14	長浜市	森前遺跡	D-SD1	52	古墳時代中期中葉	TK216	20	12.2
25	15	米原市	大乾古墳群	6トレンチ	41	古墳時代中期後葉	TK208	14.4	—
26	16	米原市	奥松戸遺跡	H地区	23	古墳時代後期初頭	MT15	18.5	—
27	17	米原市	狐塚遺跡	1号墳周溝	3	古墳時代中期末葉	TK23・47	22.8	—
29	18	甲良町	下之郷遺跡	SD3507	149	古墳時代中期前葉	TK73	45.3	—
30	19	愛荘町	市遺跡	T3-SK4	6	古墳時代後期初頭	MT15	22.5	—
31	20	東近江市	蛭子田遺跡	第五区	760	古墳時代後期初頭	MT15	17.7	—
32	20	東近江市	蛭子田遺跡	第15区	140	古墳時代中期末葉	TK23・47	20.3	—
33	20	東近江市	蛭子田遺跡	第11区	1677	古墳時代中期後葉	TK208	20	計測中
34	21	東近江市	木流遺跡	SB06	55	古墳時代中期末葉	TK23・47	19.8	—
35	22	東近江市	斗西遺跡	SD01-6	63	古墳時代中期中葉	TK216	25	39.31
36	22	東近江市	斗西遺跡	SD01-8	65	古墳時代中期後葉	TK208	14.5	3.88
37	23	東近江市	堂田・市子遺跡	古川B区 SD1	79	古墳時代中期前葉	TK73	36.3	—
38	23	東近江市	堂田・市子遺跡	古川B区 SD1	80	古墳時代中期前葉	TK73	18.3	—
39	24	東近江市	中沢遺跡	SK25	178	古墳時代中期末葉	TK23・47	20.4	—
40	24	東近江市	中沢遺跡	SD6	112	古墳時代中期末葉	TK23・47	18.4	—
41	25	近江八幡市	千僧供庭寺遺跡	—	1180	古墳時代後期初頭	MT15	13.2	—
42	26	近江八幡市	小中遺跡	—	9	古墳時代中期末葉	TK23・47	18.4	—
43	27	日野町	小御門古墳群	SD-1	C27	古墳時代中期中葉	TK216	32.4	計測中
44	28	野洲市	市三宅東遺跡	T-14	351	古墳時代中期末葉	TK23・47	17.6	—
45	28	野洲市	市三宅東遺跡	SD-5	144	古墳時代中期初頭	TG232	38.2	75.73
46	29	野洲市	木部遺跡	T1	4	古墳時代中期末葉	TK23・47	19.2	—
48	29	野洲市	木部遺跡	—	80	古墳時代中期末葉	TK23・47	20	—
49	30	甲賀市	植遺跡	SH018	2-86	古墳時代中期後葉	TK208	17.1	—
50	30	甲賀市	植遺跡	SH42	2-269	古墳時代中期中葉	TK216	42.3	—
51	30	甲賀市	植遺跡	SH52	2-341	古墳時代中期後葉	TK208	15.3	—
52	30	甲賀市	植遺跡	SH082	2-460	古墳時代中期中葉	TK216	20.1	—
53	30	甲賀市	植遺跡	SH084	2-556	古墳時代中期後葉	TK208	37.8	計測中
54	30	甲賀市	植遺跡	SH086	2-572	古墳時代中期末葉	TK23・47	20.2	55.61
55	30	甲賀市	植遺跡	SH086	2-573	古墳時代中期後葉	TK208	19.8	—

表 1 須恵器甕集成表 (2)

	図 1 遺跡番号	市町村	遺跡名	出土遺構	図番号	時期	陶邑編年	口縁部径 (cm)	容量 (ℓ)
56	31	甲賀市	下川原遺跡	SK714	0 3 5	古墳時代後期初頭	MT15	18.4	—
57	32	栗東市	狐塚古墳群	SX101	31	古墳時代中期後葉	TK208	20.2	—
58	33	栗東市	高野・辻遺跡	SB02	9	古墳時代中期後葉	TK208	16.2	—
59	33	栗東市	高野・辻遺跡	SB02	12	古墳時代中期中葉	TK216	17.1	—
60	33	栗東市	高野遺跡	包含層	233	古墳時代中期中葉	TK216	16.8	—
61	33	栗東市	辻遺跡	SH296	109	古墳時代中期後葉	TK208	21.2	—
62	33	栗東市	辻遺跡	SH296	110	古墳時代中期後葉	TK208	22	16.28
63	34	守山市	服部遺跡	第1号	C004	古墳時代中期中葉	TK216	15.8	3.35
64	34	守山市	服部遺跡	第3号	C066	古墳時代中期中葉	TK216	15.2	3.44
65	34	守山市	服部遺跡	第7号	C146	古墳時代中期後葉	TK208	17.1	—
66	34	守山市	服部遺跡	第9号	C155	古墳時代中期中葉	TK216	24.9	—
67	34	守山市	服部遺跡	第9号	C084	古墳時代中期末葉	TK23・47	21.9	15.78
68	34	守山市	服部遺跡	第10号	C022	古墳時代中期後葉	TK208	15.3	—
69	34	守山市	服部遺跡	第15号	C091	古墳時代中期後葉	TK208	19.6	—
70	34	守山市	服部遺跡	第20号	C049	古墳時代中期後葉	TK208	15.3	—
71	34	守山市	服部遺跡	第23号	C153	古墳時代中期前葉	TK73	41	120.56
72	35	守山市	弘前遺跡	S2	53	古墳時代中期末葉	TK23・47	27.2	—
73	36	守山市	横江遺跡	—	44	古墳時代中期後葉	TK208	17.4	—
74	36	守山市	横江遺跡	—	45	古墳時代中期中葉	TK216	17.7	—
75	36	守山市	横江遺跡	旧河道	194	古墳時代中期後葉	TK208	22	—
76	36	守山市	横江遺跡	旧河道	237	古墳時代中期中葉	TK216	42.7	—
77	36	守山市	横江遺跡	旧河道	301	古墳時代中期後葉	TK208	16.8	—
78	36	守山市	横江遺跡	旧河道	304	古墳時代中期末葉	TK23・47	18.1	—
79	37	草津市	北萱遺跡	包含層	1263	古墳時代中期中葉	TK216	18.6	—
80	37	草津市	北萱遺跡	包含層	1265	古墳時代中期末葉	TK23・47	21.6	—
81	37	草津市	北萱遺跡	包含層	1266	古墳時代中期末葉	TK23・47	22.5	—
82	38	草津市	志那湖底遺跡	—	15	古墳時代中期中葉	TK216	45	—
84	39	草津市	谷遺跡	SD9	109	古墳時代中期後葉	TK208	15.7	—
85	39	草津市	谷遺跡	C区包含層	426	古墳時代中期後葉	TK208	18.1	—
86	40	草津市	中畑遺跡	B区包含層	55	古墳時代中期後葉	TK208	15.9	—
87	40	草津市	中畑遺跡	B区包含層	56	古墳時代中期後葉	TK208	18.1	—
88	40	草津市	中畑遺跡	B区包含層	276	古墳時代中期末葉	TK23・47	17.5	—
89	40	草津市	中畑遺跡	B区包含層	520	古墳時代中期後葉	TK208	12.7	—
90	40	草津市	中畑遺跡	B区包含層	521	古墳時代中期後葉	TK208	14.1	—
91	40	草津市	中畑遺跡	V区	160	古墳時代中期末葉	TK23・47	19.1	計測中
92	41	草津市	御倉遺跡	3号墳	221	古墳時代中期後葉	TK208	21.2	—
93	41	草津市	御倉遺跡	D地区	61	古墳時代中期末葉	TK23・47	15.9	—
94	41	草津市	御倉遺跡	D地区	62	古墳時代中期後葉	TK208	18	—
95	41	草津市	御倉遺跡	D地区	91	古墳時代中期後葉	TK208	16.8	—
96	41	草津市	御倉遺跡	SD01A5	196	古墳時代中期中葉	TK216	22.2	—
97	42	草津市	門ヶ町遺跡	SR1	108	古墳時代中期末葉	TK23・47	20	—
98	42	草津市	門ヶ町遺跡	SR2	109	古墳時代中期末葉	TK23・47	20.4	—
99	43	草津市	柳遺跡	SD01	A1028	古墳時代中期後葉	TK208	22.8	—
100	43	草津市	柳遺跡	Aトレンチ包含層	A1214	古墳時代中期初頭	TG232	51.4	—
101	43	草津市	柳遺跡	SX1401	253	古墳時代中期末葉	TK23・47	25.2	—
102	43	草津市	柳遺跡	SX1401	254	古墳時代中期後葉	TK208	22.6	—
103	44	大津市	穴太遺跡	AP-3	148	古墳時代中期後葉	TK208	20.1	—
105	45	大津市	上高砂遺跡	SD18	177	古墳時代中期後葉	TK208	20.1	—
106	46	大津市	滋賀里遺跡	11トレンチ東半河川	201	古墳時代中期後葉	TK208	19.6	—
107	46	大津市	滋賀里遺跡	12トレンチ東半河川	202	古墳時代中期後葉	TK208	20	—
108	47	大津市	榎木原遺跡	SG1	518	古墳時代中期中葉	TK216	15.9	—
109	47	大津市	榎木原遺跡	SG2	543	古墳時代中期末葉	TK23・47	18.9	—
110	47	大津市	榎木原遺跡	SG3	545	古墳時代中期後葉	TK208	23.1	—

ANNUAL BULLETIN
of
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage
Vol.38 2025.3

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages